

はんだ山の風



看護部 看護部は新規採用者78名を迎えました。
患者さんに向き合い、寄り添い、尊い命とその人らしさを支えます。

Contents

- P.2 良いチーム作り 病院長 松山 幸弘
- P.3 新任准教授の紹介 整形外科学講座 准教授 大和 雄
臨床研究センター 副センター長 准教授 小田切 圭一
- P.4 シリーズ最新医療 Vol.38 「国産手術支援ロボットhinotoriの導入」
泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明
- P.5 病気ここが知りたい「血液疾患の治療方法とクリーンルーム」 血液内科 病院講師 永田 泰之
- P.6 栄養部「個別対応食と栄養サポートチーム(NST)」 栄養部 管理栄養士 久保田 綾乃
- P.7 院内のご案内「超音波検査センター開設について」
検査部 副部長 臨床検査技師長 山下 計太
- P.8 退職のごあいさつ「浜松医科大学に感謝です」 整形外科学講座 病院教授 星野 裕信
- P.9 埼玉西武ライオンズ栗山選手 小児病棟来訪
- P.9 フォトスポットで思い出の1ページに彩りを 母子産科病棟 助産師 伊藤 あや乃
- P.9 クールビズ実施中!
- P.10 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第29・30回) 医療福祉支援センター地域連携室
- P.10 学長より称号を付与されました
- P.10 本院で実施したクラウドファンディング「誰もが癒される病院に | 中庭の再整備とプロジェクションマッピングを!」は無事目標金額を達成いたしました。



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
(一般病院3)

病院紹介動画は
こちらから



良いチーム作り

新型コロナウイルス感染の勢いも衰退し、3月にはマスク装着も任意となり、5月の連休明けには5類へと位置付けられ、通常的生活や医療が戻ってくると期待しています。今思えば令和2年（2020年）1月から始まったコロナ感染騒動は長い3年間であったと思います。我々を取り巻く医療、生活、そして人間関係も大きく変わりました。二次医療圏における病院の立ち位置を大いに考えさせられたコロナ禍であったと思います。災害と言ってよい新型コロナウイルス感染のパンデミックは、日本医療の質や連携、特に感染爆発時の連携の弱点を炙り出しました。

まだコロナ感染が完全に終息したわけではありませんが、これを機に、次の感染爆発に対する各病院の対応、連携対応策を入念に立てる必要があります。

もちろん国レベルでのパンデミックに対する対応も変える必要がありますが、各自治体での病院連携システム構築が最も大切だと思います。

浜松医大においては、令和4年（2022年）1月から放射線治療、低侵襲手術、がん化学療法、内視鏡検査、周産母子関係の機能拡張を可能とした先端医療センターの稼働、8床のHCU、全病棟の臓器別センター化、新しいハイブリット手術室も整って令和5年度のスタートダッシュは切った状態と考えます。

この新年度は勝負の年です。ウクライナとロシア紛争を皮切りに始まった電気代や光熱費の高騰は想像を絶するものがありますが、他へ頼ることはできません。令和5年度からスタートする浜松医大は今までの浜松医大の顔を忘れて新しい医大の顔に生まれ変わる必要があります。またそうでないこの困難を乗り越えないと思います。4つの新しい手術室の稼働、病床センター化、ICU、

病院長 松山 幸弘



HCU、NICUの充実、新ハイブリット手術室の稼働、そして病床稼働が見える化した新規病床コントロールパネルの導入、全てのハードは整いました。あとは我々スタッフ全員が力を合わせて病床稼働9割、手術件数9,000件を目指してダッシュするのみです。方向性は見えています。また新しい医大はそれができる病院であり、また全スタッフもその能力を持ち合わせた一致団結した集団と信じています。

病院運営は決して容易な事ではありませんが、「患者さんを少しでもよくしたい、笑顔をもどしてあげたい」といった情熱さえあれば、どんなに忙しくても、また患者さんが合併症にみまわれてお互いにつらい思いをしても、一緒に乗り越えることができると考えています。そんな心意気を持ったチーム作りをずっと目指してきました。よいチームを作るうえで大切な名言があります。「人を熱烈に動かそうと思ったら、相手の言い分を熱心に聞かなければならない」これはデール・カーネギーが昭和38年（1963年）に出版した「人を動かす」の中の一文で、他者を認める重要性を説き続け、大切な12原則を上げています。

最も大切なのは、チーム全体の目指すゴールはシンプルで、一つの矢になることです。患者さんの病気を少しでも改善する方向へ導くこと、そして最善の治療法を追求し、最先端医療を取り入れて行くことだと思います。

ウクライナ、ロシア紛争を契機に世界はまだ動乱、混沌としており、先行きが不安な面もありますが、悩んでいても仕方ありません。情熱的で、チャレンジ精神旺盛なチームワークを目指し、大きな声を出していつも元気にニコニコしていれば何とかかなります。

運動器疾患の治療と予防の発展を目指して

整形外科科学講座 准教授 大和 雄



令和5年（2023年）4月1日付けで整形外科科学講座の准教授を拝命しました大和雄と申します。私は茨城県出身で平成9年（1997年）に本学を卒業した後、本学整形外科科学講座に入局し、運動器診療の研鑽を積んでまいりました。最近の13年間は多様化している整形外科の中でも脊椎脊髄外科を専門としており、大学病院で手術を中心とした治療を行ってきました。脊椎脊髄疾患では、脊柱変形、脊柱靭帯骨化症、脊髄腫瘍が麻痺の生じることが多い難治性疾患として知られています。私の診療および研究のメインテーマは、高齢者を含む成人の脊柱変形です。高齢者の脊柱変形はいわゆる“腰曲がり”と言われ、近年まで診療の対象外とされておりました。しかし、現在の超高齢社会および健康寿命に対する関心や意識の高まりに伴い積極的な治療を選択することが増えております。この10数年間にわたり松山幸弘教授（病院長）の

ご指導のもとで手術の技術習得や合併症対策をおこない、比較的安定した結果が得られるようになりました。しかし、悪化してしまった運動器疾患に対する加療には限界があり、医療経済の観点からも予防医学は重要です。高齢者が要介護、要支援となる原因の4分の1を占める運動器疾患に対する対策が急務です。健康寿命の延伸のためにはどのように運動器の健康を推進していくべきかはまだまだわかっておりません。また、日本整形外科学会が提唱しているロコモティブシンドロームを予防するための運動器に関する予防医学の知識と診療能力を有する医師の養成が重要です。静岡県や地域の高齢者運動器疾患の予防医学に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導よろしくお願いたします。

臨床研究のさらなる質の向上と活性化を目指して

臨床研究センター 副センター長 准教授 小田切 圭一

令和5年（2023年）3月1日付で、臨床研究センター 副センター長 准教授を拝命しました小田切圭一です。私は平成10年（1998年）に卒業し、循環器内科医として臨床に従事しました。平成21年（2009年）に本学大学院を卒業した後、4年間のヤマハ株式会社の専属産業医を経て、平成25年（2013年）に臨床薬理学講座助教として本学に戻りました。平成27年（2015年）より、臨床研究センター 副センター長 特任准教授として、研究者主導臨床研究の支援業務に従事して参りました。

臨床研究と治験は、情報や物質（化学物質や化合物など）に新しい価値を与える活動であり、そこで得られた価値は、将来の患者さんのためのエビデンス、あるいは新しい薬剤や医療機器として社会に貢献することになります。しかし、臨床研究や治験に参加していただく目の前の患者さんは、必ずしもその福利を享受できるとは限りません。ゆえに、私たち臨床研究センターは、臨床研究・治験に参加する人々の人権を尊重し、安全で良質な臨床研究・治験の実施を支援することを第

一に考え、そして質の高い臨床研究・治験の推進を通じて、未来の患者さんのための、新規医薬品・医療機器、高度医療技術の開発に貢献することを目標に掲げて活動をしています。この目的を達成するために、臨床研究センターの職員ひとりひとは、自ら考え・学び・行動し、個の力を高めることで組織力を成長させてきました。その甲斐があつてか、研究者の皆様の期待に応え得る臨床研究センターになりつつあると感じています。

今後、臨床研究センターの持続的な成長に取り組み、本学の研究の質の向上と活性化に尽力して参ります。よろしくお願申し上げます。



国産手術支援ロボットhinotoriの導入

シリーズ
最新医療
Vol.38

泌尿器科学講座 教授 三宅 秀明



何事もそうだと思いますが、物事には潮流があり、つい最近までの外科手術の大きな潮流はロボット支援手術の導入でしたが、瞬間にロボット支援手術は外科手術を席卷してしまいました。この間にも、時代はさらに進み、今や新規に開発されたロボットシステムの登場という新たな潮流に直面している状況です。新規ロボットシステムの中で、初の国産手術支援ロボットであるhinotoriは、ポートとアームの固定を要さないドッキングフリーデザインであり、ロボットアームが8軸で構成されている等、既存システムには無いユニークな特徴を有しており、実機に触れた時より、hinotoriが秘めた大きな可能性を実感していました。上記の新しい波に乗り遅れることなく最新の医療を展開するためにも、既存のシステムに加え新たにhinotoriを導入することが、様々な意味で本院の発展につながると考え、無理を承知でhinotoriの購入をお願いしましたところ、関係各位のご理解が得られ昨年（2022年）2月に本院にhinotoriを導入いただきました。

泌尿器科の目標は当初よりシンプルであり、本院をhinotoriを使用したロボット支援手術の拠点に成長させるということでありました。このために、泌尿器科スタッフは勿論、看護師、MEの皆さんにもご協力いただき、入念な準備を行い、昨年（2022年）3月に非常に円滑にhinotoriを使用したロボット支援手術を開始することが出来、現在に至るまで順調に症例を重ねている所です。本年（2023年）5月までに169例にhinotoriによるロボット支援手術を施行し、泌尿器科ではロボット支援手術の約75%にhinotoriを使用していることになり、当科におけるhinotoriを使用したロボット支援手術の実績は、診療科単位では全国最多となりました。また、多くの施設が前立腺全摘を中心に

hinotoriを活用している中、当科ではより難易度が高いとされる腎部分切除術等の腎領域の手術により積極的にhinotoriを使用しています。実際、hinotoriによる後腹膜アプローチでの腎部分切除術、下大静脈腫瘍塞栓を有する腎がんに対する腎摘除術、腎尿管全摘除術、腎盂形成術は、当科が全国で初めて実施しています。

全国に先駆けてhinotoriを使用したロボット支援手術を軌道に乗せることが出来たので、当科はこの国産手術支援ロボットhinotoriをより有効に活用するための重要な役割を担っているものと認識しています。その役割の一つが教育であり、当科はhinotoriを使用するに際してのサーティフィケート取得に必要な手術見学施設に認定されており、既に多くの見学者を受け入れています。また、当科の経験を国内外に発信することも重要な使命です。hinotoriを使用したロボット支援腎部分切除術の初期経験をまとめ、その成績を泌尿器科内視鏡手術関連では最も権威のあるJ Endourology誌に報告した他、既存機種による手術成績との比較を日本ロボット外科学会で発表し、優秀演題賞として表彰されております。（この内容はJ Robot Surg誌に掲載しています。）その他、今年度設置されました先進ロボット手術開発学講座の研究課題として、hinotoriを使用した遠隔地ロボット支援手術教育システムの確立を掲げており、その実証実験も精力的に推進しております。

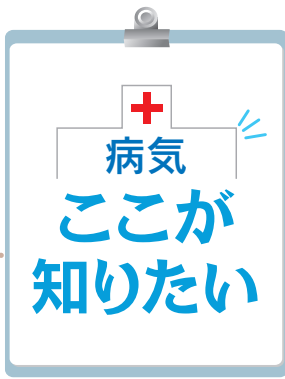
ロボット支援手術が今後外科手術の中核を成すことに疑いの余地はなく、当科では特に国産手術支援ロボットhinotoriを今後も積極的に活用することにより、洗練された斬新なロボット支援手術を幅広く展開することで、ロボット支援手術の拠点としての立場をより強固なものとするよう努力したいと考えております。この場をお借りして、読者の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



hinotoriを使用したロボット支援手術



hinotoriを使用した遠隔地教育システム構築に向けた実証実験



血液疾患の治療方法と クリーンルーム

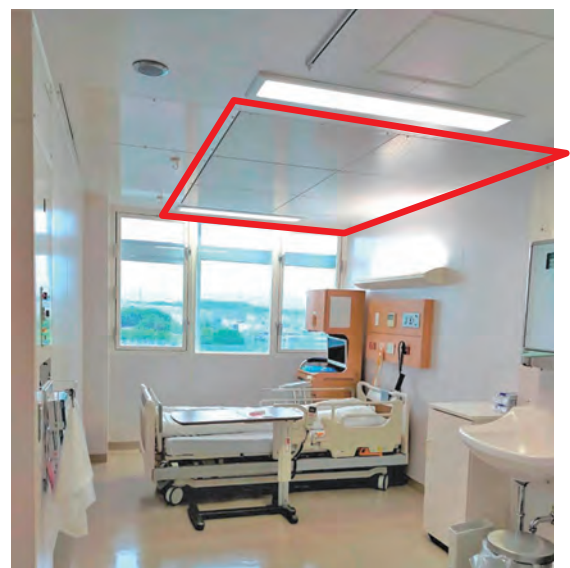


血液内科 病院講師 永田 泰之

血液内科という診療科はあまり馴染みがないかもしれませんが。私たちが扱っているのは、まさに血液の中ではたらく細胞の数や機能に異常が生じておきる病気です。貧血から白血病や悪性リンパ腫といった血液がんの治療まで担当しています。ここでは血液がんの治療について紹介させていただきます。血液がんというと白血病をイメージされることが多いと思います。急性白血病では、体の中の白血病細胞を一つ残らず退治することで完治が期待できますので、複数の抗がん剤を使って白血病と闘います。白血病の細胞は、もともとは血液の細胞だったものが“がん化”したもので、ここで使われる抗がん剤は白血病細胞だけではなく、正常な血液の細胞にもダメージを与えてしまいます。血液の細胞の中でも白血球といわれる細胞は、体外から侵入してくる細菌やウイルスなどを排除して感染症から体を守るはたらきをしています。抗がん剤治療によりこれらの細胞が壊されて減ってしまうと感染症に罹りやすくなります。このため、血液がんの治療をおこなう場合には、感染症の予防が非常に重要となります。これは、白血病治療だけではなく、骨髄移植などの造血幹細胞移植を受けられる患者さんや、免疫細胞療法であるキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T細胞）療法を受けられる患者さんにおいてより大切です。この感染症との闘いから患者さんを守るための切り札がクリーンルームになります。

クリーンルームにはHEPAフィルターと呼ばれる非常に高性能なエアフィルターが備わっています。HEPAフィルターは、ほこり、カビ（真菌）、ウイルスなど、空気中のごく小さな粒子を捕集することができます。特に空気中のカビの一種は、健康な人には無害であっても白血球が減った人や免疫力が低下した人が吸い込むと特殊な肺

炎を起こすことがあり、とても治療が難しいことがあります。クリーンルームでは、外から取り入れた空気をHEPAフィルターで浄化し、これら感染症の原因となる粒子を排除したきれいな空気を病室に届けます。これによって重症感染症を発症される患者さんの割合を大幅に減らすことができようになりました。空気の清浄度は、慣例的に1立方フィート（約30cm立方）の中の0.5 μ m以上の粒子数で示され、10,000個以下/立方フィートの場合にクラス10,000と称します。クラス100など数字が小さいほど、粒子数が少ない高品質なクリーンルームとなります。本院の血液内科病棟には、クラス100の個室が6部屋、クラス1,000の4人床が2部屋あります。また、クリーンルームの廊下にもHEPAフィルターが常設され、クラス100,000の清浄度を保っているため、患者さんたちが安心してリハビリテーションや個室外での息抜きができるよう配慮されています。感染症のリスクをできるだけ減らして本来の抗がん剤治療や移植治療に専念できるよう環境を整えることが、血液がん治療の最初の一步と考えています。



クリーンルーム(赤枠で囲まれた部分がHEPAフィルター)



栄養部 管理栄養士 久保田 綾乃

入院中は、治療や手術が原因で味覚障害や食事摂取量が減少したり、体調不良や活動性の低下により食欲が低下し、食事が十分にとれない場合があります。

栄養不足が続くと、体重減少だけではなく、病気の回復が遅れ、さらなる合併症に繋がり、飲み込む能力の低下や、入院の長期化など、様々な弊害が生じることがわかっています。

本院では、管理栄養士の病棟配置制度をいち早く取り入れ、病棟と連携を図りながら、患者さんの栄養サポートを担っています。

病院食の提供量が多く、見ただけで食欲が減退する場合や、すぐに満腹になってしまうケースでは、病院食の提供量を減らし、代わりに栄養補助食品を組み合わせることで、栄養密度を高めつつ、精神的負担感の軽減を図り、必要な栄養がバランスよく摂取できるよう調整しています。

また、本院の栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）は、総責任者である日本病態栄養学会病態栄養専門医を中心に、リハビリ科医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養

士、言語聴覚士、歯科衛生士など、多職種で構成されたメンバーでチーム医療を行い、それぞれの専門的知識や技術を持ち寄り、最良の方法で栄養支援を行うことを目的としています。

毎週木曜日のNSTカンファレンスでは、経口摂取や経管栄養、輸液を含めた栄養管理方法の検討や、栄養診断、評価、プランの修正、回診を行い、患者さん個々に最適な栄養管理を行うべく、チームでの活動を継続しています。さらに、院内スタッフの知識の向上を目的に、月1回のNST勉強会も開催しています。

今後、疾患診療を栄養面から適切に支援することができるよう、チーム一丸となって、サポートができればと考えております。

なお、入院中の食事でお困りの場合は、まずは病棟担当の管理栄養士へご相談ください。



常菜食C



ハーフ・常菜B+栄養補助食品(ONS)



NSTメンバー

院内のご案内「超音波検査センター開設について」

検査部 副部長 臨床検査技師長 山下 計太



超音波検査センター（以下エコーセンター）は、皆様のおかげで令和5年（2023年）4月に開設することができました。この場を借りて、ご尽力いただいた方々にお礼申し上げます。

エコーセンター開設までの道のりは、令和元年（2019年）までさかのぼります。診療科から検査部に対し、心臓領域を中心に、エコー検査のニーズが高まっていました。また、他大学病院におきましてもエコー検査の充実を進めているところでした。そんな背景もあり、本院の検査部として、エコー検査の件数増加や利便性向上を目標にし、エコーセンターを作ろう！“やらまいか”と皆で企画しました。まずは人員を確保して、エコー検査スキルを上げること、検査できる技師を育成することから始まりました。エコー検査は、技術習得までの時間がかかる検査のひとつです。ニーズが高かった心エコー検査は、特に習得時間がかかる（一般的に2～3年）と言われています。令和元年（2019年）の時点で心エコー検査技師は、常勤2名（習得中1名）と非常勤1名でした。ここから、開設にむけ、5名の教育がスタートしました。指導するスタッフもとても苦勞の連続だったと思います。また研修を優先するために、他の検査業務の効率化を進め、検査部スタッフ全員が、開設にむけて頑張ってくれました。

令和2年（2020年）以降、新型コロナウイルス感染症の大流行やウクライナ情勢などエコーセンターに立ちふさがる壁が大きく、厳しい状況が続きました。そのような中、乳腺外科をはじめとする診療科、施設課、病院経営支援課・病院調

達係、医療情報部、医事課など病院全体で施設・ネットワーク・運用体制を拡充することができました。従来の2階検査部フロアから3階旧外来化学療法センターへ移設となり、ご不便おかけするかもしれませんが、心エコー検査を従来の2台体制から4～5台体制とし、6名（+2名習得中）で検査可能となりました。また新たに手術前や入院前などの心機能スクリーニングのための“心エコースクリーニング”という検査枠も設けました。是非、多くの患者さんにご利用いただけると嬉しい限りです。

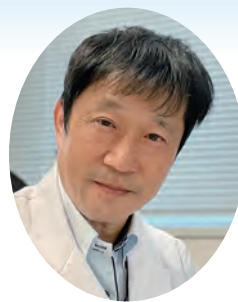
エコーセンター開設から2カ月が経過し、まだまだ課題もあります。もっと簡単に当日予約できる運用や心臓領域以外のエコー検査の拡充、生検や経食道エコーなど患者さんに負担が大きい検査を安全に実施してもらうための仕組みづくりなど、少しずつではありますが、工夫して改善していく所存ですので、今後どうぞよろしく願い申し上げます。



超音波検査センター 検査部スタッフ

浜松医科大学に感謝です

整形外科学講座 病院教授 星野 裕信



私は平成9年（1997年）に浜松医科大学に助手として採用されてから、四半世紀をここで過ごしてまいりました。整形外科の医局においては、3人の偉大な教授のもとで仕事をさせていただきました。初代 井上哲郎教授時代には主として骨代謝の研究に力を注ぎ、二代目 長野昭教授時代には股関節外科医として多くの研鑽を積みました。そして三代目 松山幸弘教授のもとでこれまで積み上げてきた研究の基礎を臨床に応用し、全国レベルの学会で活躍できるようになり、大学院生や後輩の指導にも多くの時間を費やすことができました。またサッカー部の顧問として、多くの学生と楽しい時間を過ごすこともできました。研究、教育、診療のすべての面において、多くの人たちの助けがありました。これまで大きな挫折なく続けてこられたことに感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

整形外科医として臨床をしていると、多くの患者さんから感謝の言葉をいただくことがありま

す。私自身その患者さんによって多くの経験を積みさせていただき、その感謝の言葉が私にとってもっと多くの患者さんを助けたいという次へのパワーとなります。ゆえに感謝の言葉には感謝で返すようにしてきました。外来や病棟、手術室でも私の仕事の裏で多くの方が関わってくれていたと思います。直接感謝の言葉が伝えられないのが残念ですが、ここで感謝の気持ちを伝えられればと思います。本当にありがとうございました。

私は令和5年（2023年）3月をもって本学を退職し、4月からは藤枝市立総合病院に副院長として赴任します。これからも感謝の気持ちを忘れずに前へ進んでいこうと思います。長きにわたりこれまで関わっていただいた多くの浜松医科大学の職員、学生に感謝です。本当にありがとうございました。

（※令和5年3月退官時の職名で掲載させていただいております）



人工股関節手術執刀前の風景



サッカー部 試合後の記念撮影

埼玉西武ライオンズ栗山選手 小児病棟来訪

令和5年（2023年）1月12日（木）、埼玉西武ライオンズの栗山巧選手が小児病棟に来訪されました。栗山選手はすでに「公益財団法人 がんの子どもを守る会」を通して小児病棟におもちゃを多数寄附して下さっており、今回は患者さんと対面で交流していただく機会となりました。

患者さんとの交流は、感染対策を徹底して小児病棟のプレイルームで行われました。まず代表の患者さんがお礼の手紙を渡したあと、希望した患者さんが栗山選手とおしゃべりをしたり、一緒に記念撮影をしたりして交流しました。ユニホーム姿の栗山選手を前に、はじめは緊張した面持ちだった患者さんも、にこやかに話される栗山選手に安心して少しずつ表情が和らぎ、最後はすてきな笑顔を見せてくれました。見守るスタッフや保護者の方にも笑顔の輪が広がり、なごやかな



交流となりました。また、小児病棟のスタッフも栗山選手と交流する姿が見られました。

その後、松山病院長や小児科の宮入教授、坂口講師からお礼状と記念品などの贈呈が行われました。最後に、体育館で2名の患者さんが栗山選手とキャッチボールを行いました。患者さんが力強い球を披露すると、栗山選手がそれに応えて返球し、体育館中に小気味よい音を響かせました。

栗山選手の来訪は、病気と闘う患者さんとそのご家族だけでなくスタッフも勇気づけられ、思い出に残るひとときとなりました。栗山選手、球団関係者の皆様、本当にありがとうございました。

フォトスポットで思い出の1ページに彩りを

母子産科病棟 助産師 伊藤 あや乃

周産母子センターがリニューアルオープンし、生まれてきた赤ちゃんが優しくゆりかごに包まれ、加護を受けて育ちますようにと願いを込めて、愛称は「はまかご」になりました。今回は、産科病棟に新しくできたフォトスポットについてご紹介したいと思います。

このフォトスポットは「はまかご」のロゴマークを背景に記念写真を撮影できるようになっています。ロゴの反対側には立体の積み木があることで、奥行きも感じられるようなフォトスポットになっています。

フォトスポットが出来てから、退院の時にご家族で写真を撮る姿が見られるようになりました。時には「医師や看護師も一緒に」と声をかけてくださる方もいらっしゃいます。

このフォトスポットが、出産という人生の中で数えられるほどしかない貴重な経験の記念に花を添えられる存在になってくれたら嬉しいです。また、本院で出産された記念に、多くの方に利用していただき、周産母子センター「はまかご」を知っていただくきっかけになればよいと思います。



クールビズ実施中!



5月1日から9月30日までの期間は省エネルギー対策及びCO₂排出量削減のため室内の温度の目安を28度とする
とともに職員は軽装での勤務となります。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内（医療従事者向け）

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。（8月の開催はありません）

開催回	開催日時	講師	申込締切
第29回	7月26日(水) 19時30分～20時30分	 第二内科 診療助教 釣谷 大輔 先生 「糖尿病診療における医療連携 ～浜松での取り組み～」	7月25日(火)
第30回	9月20日(水) 19時30分～20時30分	 精神医学講座 教授 山末 英典 先生 「浜松医大精神科～神経発達症、心的 外傷後ストレス障害、摂食障害などの 専門的診療について～」	9月19日(火)

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。



お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

学長より称号を付与されました

R5.7.1 現在

病院教授称号付与者一覧

医学部眼科学講座	佐藤美保
医学部附属病院血液浄化療法部	加藤明彦
医学部附属病院病理部	馬場 聡
医学部外科学第一講座	船井和仁
医学部麻酔・蘇生学講座	加藤孝澄
医学部附属病院リハビリテーション部	山内克哉
医学部皮膚科学講座	伊藤泰介

病院准教授称号付与者一覧

医学部附属病院第三内科診療科群	小川法良
医学部附属病院皮膚科	島内隆寿
医学部附属病院眼科	彦谷明子
医学部附属病院小児科	藤澤泰子
医学部附属病院第二外科診療科群	倉地清隆
医学部附属病院整形外科	長谷川智彦
医学部附属病院第一外科診療科群	鷺山直己
医学部附属病院耳鼻咽喉科	今井篤志
医学部附属病院光学医療診療部	大澤 恵
医学部附属病院周産母子センター	田村直顕

病院講師称号付与者一覧

医学部附属病院リハビリテーション部	永房鉄之
医学部麻酔・蘇生学講座	川島信吾
医学部整形外科講座	紫藤洋二
医学部脳神経外科学講座	根木宏明
医学部内科学第三講座	永田泰之
医学部外科学第一講座	小泉 圭
医学部内科学第三講座	成瀬代士久
医学部小児科学講座	夏目 統
医学部附属病院第二外科診療科群	佐野真規
医学部附属病院耳鼻咽喉科	望月大極
医学部産婦人科学講座	幸村友季子

本院で実施したクラウドファンディング

「誰もが癒される病院に | 中庭の再整備とプロジェクションマッピングを！」

は無事目標金額を達成いたしました。



寄附総額 **18,526,720**円（目標金額 15,000,000円）

寄附者 **330**人

実施期間 3月6日(月)～4月28日(金)

たくさんのご支援と応援をいただき、ありがとうございました。

皆様のご寄附を活用させていただき、中庭再整備も現在進行中です。

外来診療日一覧

2023.7.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター受付電話 435-2484											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ
※脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
IBDセンター	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
家族性消化器腫瘍外来				◆						◆	
脳神経病態外来	◆					◆					
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
ペースメーカ外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
合併症外来								◆			
精神科神経科 受付電話 435-2635											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来 摂食障害専門外来								◆	◆		
デイケア							◆		◆		※2020.4.28～休診
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆						◆			
内分泌		◆						◆			
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆		◆			◆		
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
特殊予防接種										◆	
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
一般外科	○		○		○	○		○		○	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
血管外科		◆		◆			◆				木曜日：下肢静脈瘤
IBDセンター	◆					◆					
リンパ浮腫センター				◆					◆		
専門外来 肥満減量外来	◆	◆			◆					◆	
緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍		◆						◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来		◆	◆				◆	◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
専門外来	腎移植外来				◆				◆			医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆				◆	◆			
	不妊症外来		◆		◆			◆		◆		火曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来										◆	第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
専門外来	腫瘍外来	◆			◆	◆			◆			
	耳外来				◆					◆		
	耳鳴外来		◆					◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
	顔面神経外来		◆		◆			◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆						◆	
	めまい外来			◆						◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	NIPT外来							◆				
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆						◆	第1、2、4週のみ
	母親学級											予約制
	助産師外来											要問い合わせ
	乳腺予防ケア外来											(午後に産科婦人科へ)
ART室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	放射線診断科 IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	いたみセンター	◆					◆					
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆					◆			午後のみ
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆			
	痙縮外来		◆		◆			◆		◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	唇顎口蓋裂外来			◆					◆			専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴			◆					◆			
	矯正歯科					◆					◆	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院